

## 総裁 秋篠宮皇嗣殿下

### おことば



本日、「済生会創立 110 周年記念式典」が、全国の済生会支部および施設からの参加を得て開催されますことを誠に喜ばしく思います。そして、創立 110 周年特別表彰を受けられる方々にお慶びを申し上げます。

済生会は、明治 44 年、明治天皇の済生勅語により、社会に増大した困窮者に医療を行い、それによって生を救うことを目的として創立され、御下賜金と全国の官民から寄せられた寄付金によって同 45 年から本格的に活動を開始いたしました。爾来 110 年の長きに亘り、「施薬救療」の創立の精神を引き継いで、医療と福祉の充実・発展のために多くの事業に取り組んでまいりました。

ここに本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力と英知に対し深く敬意を表します。

この 10 年を振り返りますと、大きな自然災害の連続であったと思われれます。私も 2016 年 4 月に起こった熊本地震と 2018 年 7 月の西日本豪雨の後に被災地を訪れました。熊本地震のおりには、熊本病院自らが被災しながらも近隣施設の患者を引き受けるとともに、医療スタッフを派遣するなど懸命な救援活動を行ったと聞き、強く心を打たれました。また、西日本豪雨後には広島病院と特別養護老人ホーム、そして本会が活動を行っていた避難所を訪れましたが、大勢の職員が、自分自身も被災し元の生活を取り戻せる見通しが立たない中で、被災者支援に当る姿を目の当たりにしたことは、鮮明な記憶として残っております。

さて、この 2 年、私たちは SARS-CoV-2 という今まで知られていなかったウイルスにより世界規模の脅威にさらされてきました。私は、このウイルスによる COVID-19 の感染者を、これまで機会があるごとに受け入れている複数の病院から、オンラインで説明を受けてきましたが、各施設の職員が常に感染の危険にありながらも一丸となり、一人でも多くの生を救うという使命感を持ち、献身的に医療に従事していることに深い感銘を覚えました。

現在、この感染症の拡大により、仕事を失い、孤独や孤立に陥り、生活に困窮する人々が増えています。本会はそのような人々を支えるため、生活困窮者支援事業「なでしこプラン」をさらに推進するとともに、新たにソーシャルインクルージョンの理念に基づいた、誰一人取り残さない「まちづくり」に取り組んでいます。この活動が今後もより一層大きな役割を果たしていくことを期待いたします。

終わりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの方々に感謝の意を表するとともに、本会の活動が人々の健康と幸福により一層大きな役割を果たしていくことを願い、記念式典に寄せる言葉といたします。